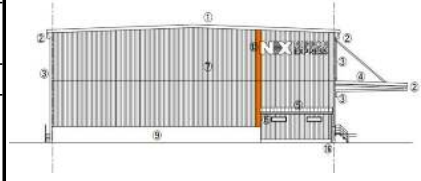


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)日本通運(株)浜松支店 倉庫 | 階数 | 地上2F |
| 建設地 | 静岡県浜松市中区神田町字五味洗 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 市街化調整区域、工業地域、法第2 | 平均居住人員 | 95 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 4,380 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年10月 予定 | 評価の実施日 | 2022年10月3日 |
| 敷地面積 | 7,872 m ² | 作成者 | 白井 克信 |
| 建築面積 | 5,257 m ² | 確認日 | 2022年10月3日 |
| 延床面積 | 9,481 m ² | 確認者 | 白井 克信 |



| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート) | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|--|---|----------------------|
| <p>BEE = 0.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> | <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

| 2-4 中項目の評価(バーチャート) | | |
|---------------------------------------|--|---|
| <p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.3</p> | | |
| <p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0</p> | <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.4</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2</p> |
| <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2</p> | | |
| <p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6</p> | <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8</p> | <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p> |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|---|--|
| <p>総合</p> <p>開放感のある空間作りをする一方で、省エネルギーや省資源を図り、地球温暖化や地域環境への配慮を行っています。</p> | | <p>その他</p> <p>0</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐用年数の長い配管や設備機器を使用して長寿命化を図っています。 十分な階高と空間の自由さを確保し、空間にゆとりを持たせています。 | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外構緑化を行って植栽による良好な景観を形成しています。 |
| <p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> LED照明を採用して省エネルギーを図っています。 | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水便器や自動水栓を採用して水使用量の削減を図っています。 躯体と仕上げ材が容易に分別可能な部材を使用し、部材の再利用可能性の向上を図っています。 | <p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内に十分な駐車スペースを確保するとともに、十分な幅員の導入路を確保することにより、周辺道路の渋滞を緩和しています。 広告物照明をしていません。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

| 1. 建物概要 | | | | | | |
|---------|---------------------|-----|-----|--------|----|----|
| 建物名称 | (仮称)日本通運(株)浜松支店 倉庫棟 | BEE | 0.7 | BEEランク | B- | ★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | |
|--|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------------|
| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | 取組み度 | 評価 | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.4 /5 | | ふつう | | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.8 /5 | | がんばろう | | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 4.0 /5 | | よい | | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.4 /5 | | がんばろう | | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | 評価 凡例 | よい 4 点以上 | ふつう 3 点以上 | がんばろう 3 点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | | |
|--|--|--|--|--|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | 得点 | 3.4 | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) | | | | |
| <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 評価対象外です</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ・外構緑化を行って植栽による良好な景観を形成しています</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ・LED照明を採用して省エネルギーを図っています</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ・節水便器や自動水栓を採用して水使用量の削減を図っています ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能な部材を使用し、部材の再利用可能性の向上を図っています</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ・敷地内に十分な駐車スペースを確保するとともに、十分な幅員の導入路を確保することにより、周辺道路の渋滞を緩和しています ・広告物照明をしていません</p> | <p>Q-1 2 2.1 2.2 ①</p> <p>Q-1 3 3.1 3.13 ②</p> <p>Q-1 3 3.2 3.2.1 ③</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</p> <p>2.2.2 ④</p> <p>2.2.3 ④</p> <p>2.2.4 ④</p> <p>2.2.5 ④</p> <p>2.2.6 ④</p> <p>Q-3 1 ⑤</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-1 1 ⑦</p> <p>2 ⑧</p> <p>3 ⑨</p> <p>4 4.1 ⑩</p> <p>4.2 ⑩</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪</p> <p>1.2.2 ⑪</p> <p>2 2.1 ⑫</p> <p>2.2 ⑫</p> <p>2.3 ⑫</p> <p>2.4 ⑫</p> <p>2.5 ⑫</p> <p>2.6 ⑫</p> <p>3 3.1 ⑬</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬</p> <p>3.2.2 ⑬</p> <p>3.2.3 ⑬</p> <p>LR-3 1 ⑭</p> <p>2 2.2 ⑮</p> | <p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p> <p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p> <p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p> | | |
| | "災害に強いしずおか"の形成(Disaster) | | | |
| | <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ・建築基準法に定められた耐震性を備えています</p> | <p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</p> <p>2.1.2 ⑯</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰</p> <p>2.4.2 ⑰</p> <p>2.4.3 ⑰</p> <p>2.4.4 ⑰</p> <p>2.4.5 ⑰</p> | <p>⑯ 耐震性</p> <p>⑰ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p> | |
| | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) | | | |
| | <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ・ゆとりある階高と空間には自由さを持たせています</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ・北、東側に緑地を設置しています</p> | <p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲</p> <p>3.1.2 ⑲</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳</p> | <p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p> | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) | | | | |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上) ・広葉樹やつつじを植栽して自然に親しめる環境づくりを行っています</p> <p>■敷地外環境対策 (⑷持続可能な森林から産出された木材/⑸温熱環境悪化の改善) ・見付面積や高さ形状に配慮して、風下地域への風通しの配慮をしています ・排熱機器を使用せず、大気への排熱量を低減しています</p> | <p>Q-3 1 ⑵</p> <p>2 ⑵</p> <p>3 3.2 ⑶</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑷</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑸</p> | <p>⑵ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑵ まちなみ・景観への配慮</p> <p>⑶ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑷ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑸ 温熱環境悪化の改善</p> | | |